

公益財団法人 溶接接合工学会 第34回セミナー

省人化・低コスト化に対応したインフラマネジメントの方向性

対面ーWEBハイブリッド開催

2025年11月11日（火） 13:00 - 17:30

主 催

（公財）溶接接合工学会

後 援

（一社）火力原子力発電技術協会 （一社）軽金属溶接協会 （公財）国民工業振興会 （一社）全国鐵構工業協会 （一社）鉄骨建設業協会
（公社）土木学会 （一社）日本機械学会 （公社）日本技術士会 （一社）日本橋梁建設協会 （公社）日本金属学会 （一社）日本原子力学会
（一社）日本建築学会 （一社）日本高圧力技術協会 （一社）日本鋼構造協会 （公社）日本材料学会 （公社）日本船舶海洋工学会
（一社）日本鉄鋼協会 （一社）日本非破壊検査協会 （一社）日本非破壊検査工業会 （公社）日本プラントメンテナンス協会
（一社）日本保全学会 （一財）日本溶接技術センター （一社）日本溶接協会 （一社）日本材料工業会 （一財）発電設備技術検査協会
（公社）腐食防食学会 （一社）溶接学会

50音順 依頼中

開催趣旨

高度成長期に整備された道路・橋梁・上下水道などのインフラは、建設から50年以上経過し、老朽化が進みつつあります。特に、地方自治体が管理する施設では、予算や人員の減少により、老朽化対策が大きな課題となっています。そのため、従来の「事後保全」から「予防保全」へと方針を転換し、維持管理費の削減と効率化を目指すとともに、包括的民間委託を導入し、業務の効率化と産業界との連携が進んでいます。

最新技術として、ドローン等によるデジタル画像化や AI を活用した非破壊検査、自動診断、ビッグデータによる予測管理、デジタルツインによる予防保全・補修計画の最適化などが導入され、省人化やリアルタイム対応が可能になってきました。また、短工期で運用を止めずに行う補修新技術や疲労耐久性向上のための溶接技術も開発されています。

本セミナーでは、人手不足中でのインフラ管理方法、インフラの省人化施策、DX 活用、最新検査技術、効率的な予防保全・補修方法を紹介し、今後の維持管理のあり方について議論・情報交換の場を提供します。

日 時： 2025年11月11日（火） 13:00 - 17:30
場 所： 溶接会館 2階ホール （東京都千代田区神田佐久間町 4-20）
JR 山手線秋葉原駅下車：昭和通口 徒歩8分
会 費： 10,000円 （資料代、消費税含む）
定 員： 対面80名 WEB 参加の制限なし（参加者全員にWEB 参加招待メールをお送りします）
テキスト： PDF データでの事前配布

セミナー参加者に、聴講証明書(CPD)を発行いたします。

【 はじめに 】 〔溶接会館 2階ホール〕 13:00 - 13:05

13:00 - 13:05	開会挨拶	理事長	南 二三吉氏
13:05 - 13:10	趣旨説明	日本製鉄(株)	吉田 博司氏
	今回のテーマを取り上げる背景・経緯から、本セミナーの構成と各講演の位置付けを概説する。		

【 基調講演 】 13:10 - 13:55

13:10 - 13:55	国土交通省におけるインフラメンテナンスの取組	国土交通省	岩舘 慶多氏
	インフラ老朽化と人手不足が同時に進行する中、複数自治体のインフラや複数分野のインフラを「群」として捉え、効率的・効果的にマネジメントしていく「地域インフラ群再生戦略マネジメント（群マネ）」の取組について紹介する。		

13:55 -14:35	AI×環境データによる埋設配管の劣化診断	Fracta Japan(株)	井原 正晶氏
	上下水道を始めとした地下埋設配管の老朽化が社会問題となっている今、これらの事故リスクを環境データおよびAIを使って予測する技術を紹介する。		
14:35 -15:15	東邦ガスネットワークにおける非開削工法の開発・導入	東邦ガスネットワーク(株)	北野 哲司氏
	社会インフラであるガス管の経年化対策は、私たちが取り組むべき重要な課題。当社では、この課題に対し、計画的・効率的・低コストで更新可能な「非開削工法」などの導入を推進している。その技術概要や開発状況を紹介します。		
15:15 -15:30	休憩（15分間）		
15:30 -16:10	電力インフラ設備の老朽化への対応 ～新たな技術で維持・管理～	中部電力(株)	清水 雅仁氏
	高度経済成長期に建設された電力インフラ設備の老朽化が進む中、計画的に設備更新を進めると共に、信頼性を確保しつつ効率的な設備の維持・管理を実現することが必要である。電力の安定供給を支えるための維持・管理技術を紹介する。		
16:10 -16:50	溶接鋼構造物の残留応力を活用した疲労耐久性向上技術	日本製鉄(株)	島貫 広志氏
	従来、溶接鋼構造物の疲労耐久性向上には、応力集中の低減が基本であるが、近年は圧縮残留応力を活用した疲労対策も広がりを見せている。これらの技術の疲労き裂発生・進展の抑制への有効性やさらなる展開について概説する。		
16:50 -17:25	総合討論	日本製鉄(株)	吉田 博司氏
17:25 -17:30	閉会挨拶	常務理事	山 根 敏氏

【申し込み・問い合わせ先】

(公財) 溶接接合工学振興会 事務局

住所：〒101-0025 東京都千代田区神田佐久間町4-20 溶接会館7F

TEL：03-5823-5887

E-mail：yokoshin@yokoshin.or.jp

WEB site：http://www.yokoshin.or.jp

【申し込み方法】

- ・参加申込書にご記入の上、E-mailにて事務局までお送りください。(申込締切り：2025年11月7日(金))
- ・参加費は、11月7日(金)までに下記口座へお振込みください。銀行手数料は、申込者にてご負担ください。
銀行振込先：みずほ銀行 五反田支店
普通預金口座 No.2299888 口座名義：ザイ) ヨウセツセツゴウコウガクシンコウカイ
- ・銀行振込完了確認後、受講確定メールを事務局よりお送りします。
- ・原則として、口座へのご入金をもって領収書に代えさせていただきますが、受講確定メールに受領書を一緒に添付させていただきます。
- ・振込み後の参加費は返却しません。当日ご欠席の場合は、代理出席も可能です。
- ・資料は、紙印刷物として配布しません。予め受講確定メールにて連絡します URL よりダウンロードしてください。
11月4日(火)から11月11日(火)までダウンロードが可能です。
- ・対面参加の方は、受講確定メールに添付いたします『受講券』を各自印刷しセミナー当日必ずご持参ください。
- ・WEB参加の方は、受講確定メールに【ID、パスワード、URL】が記載されております。
下記受講の際に必要なとなります。(対面参加の方にも【ID、パスワード、URL】をお送りいたします。)
*参加用URLはご登録者専用のため、他の人との共有は出来ません。
*11月6日(木)までに受講確定メールが届かない場合は、事務局までご連絡ください。
- ・WEB参加の方は、セミナー当日、URLにアクセス頂きご参加ください。
- ・当日は午前10時からURLに接続頂けますので接続状況等を確認ください。

【注意事項】

- ・インターネット経由でのライブ配信ですので、回線状態などにより、画像や音声がかかる場合があります。
また、状況によっては講演を中断し再接続して再開する場合がありますが、予めご了承ください。

【同意事項】

○本セミナーに参加する者は、次の事項にご同意いただいたものいたします。

- ①セミナーに係る一切のデータ（講演画面、質疑応答等を録画・録音・撮影（画面キャプチャーを含む）等）については、複写、記録及び拡散しないこと。
 - ②WEB参加者宛に配信されたURL等の参加者限定情報を第三者に伝えないこと。
 - ③WEB参加者は、複数台のPCや端末で入室しないこと。
 - ④WEB参加者は、参加者以外に講演を視聴させることや、参加者以外に講演を視聴可能な状態にしないこと。
 - ⑤WEB会議室に入室されたWEB参加者の名称が確認できない場合は、当日お尋ねしますが、お尋ねに応じない場合は、会議室のロビーへ移動される場合があること。
 - ⑥セミナーの運営に支障をきたす行為が発覚した場合、セミナーを強制的に停止又は終了することがあること。
 - ⑦その他、当セミナーの主催者からの指示があれば従うこと。
- 本同意事項については、円滑な講習会の運営のため、当委員会の判断により変更されることがございます。大きな変更が生じる際は、申込時の登録メールへお知らせするほか、該当HPに掲載します。

E-mail: yokoshin@yokoshin.or.jp

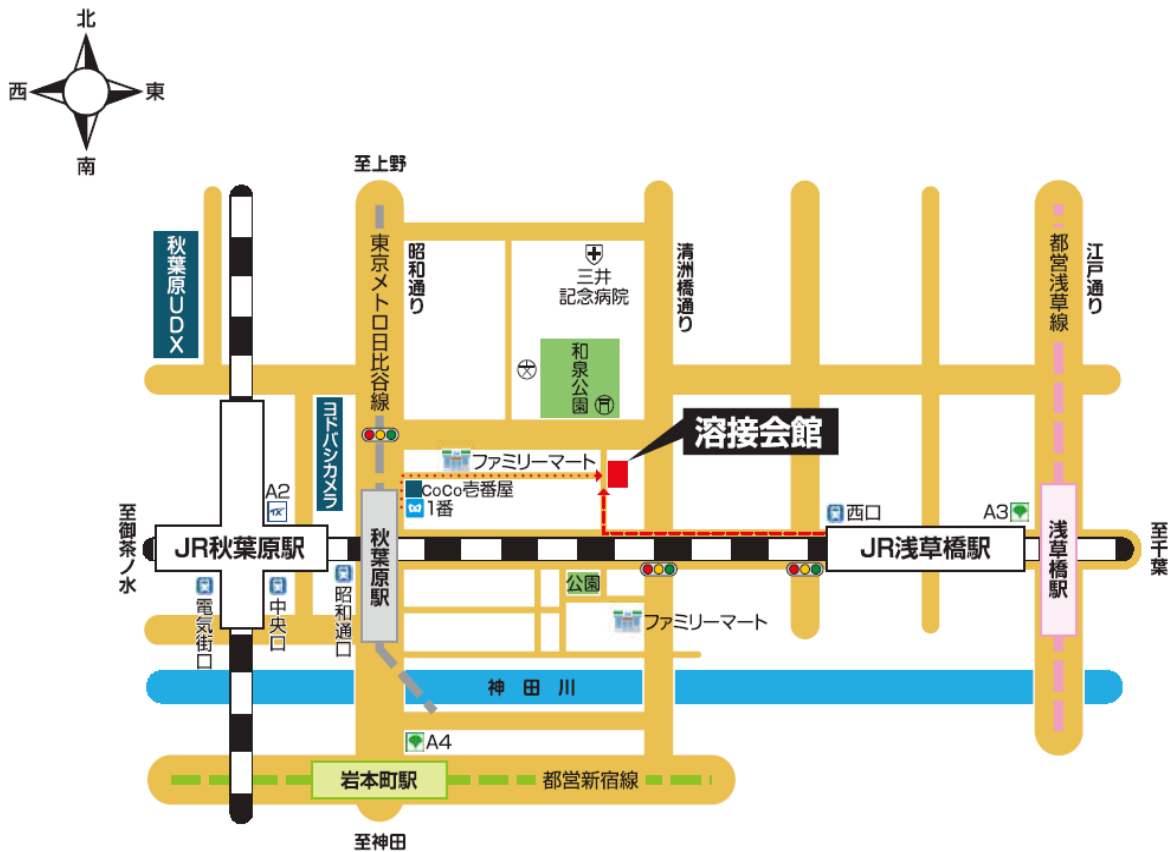
同意事項に同意して参加申込します。

（公財）溶接接合工学会 行

公益財団法人 溶接接合工学会 第34回セミナー <u>省人化・低コスト化に対応したインフラマネジメントの方向性</u> 対面－WEB ハイブリッド開催	
参加申込書＜締切り:2025年11月7日(金)まで延長しました＞	
名前(フリガナ)	
会社・大学等	
所属部署	
住 所	
電 話	
E-mail (必須)	
参加方法 (し点を記入)	☐ 溶接会館で参加 ☐ WEB で参加
緊急連絡先 携帯電話番号等	
振込期日	受講料は2025年11月7日(金)までに指定銀行へお振込み願います。
ご質問・ご要望等あり ましたらご記入ください。	
備考欄	

※申込書は、（公財）溶接接合工学会ホームページ（WEB site : <http://www.yokoshin.or.jp>）からダウンロードすることも可能です。

【会場へのアクセス】



- ・JR 秋葉原駅 昭和通り口から徒歩 約8分
- ・JR 浅草橋駅 西口から徒歩 約8分
- ・東京メトロ日比谷線 秋葉原駅 1番出口から徒歩 約7分
- ・都営新宿線 岩本町駅 A4 出口から徒歩 約12分
- ・都営浅草線 浅草橋駅 A3出口から徒歩 約11分

溶接接合工学会振興会について

【沿革】

わが国溶接技術の草創時代の先駆者故佐々木新太郎氏を顕彰し溶接工学の普及発展に努めた功労者を表彰するために、昭和45年財団法人佐々木記念会を設立しその事業を遂行してきました。
また昭和57年からは溶接界の泰斗故木原博工学博士の高邁な思想を基に国際学術交流奨励会を設けて若手研究者、技術者の支援事業を図ってまいりました。
平成3年関連企業のご協力を戴き両団体を統合し文部省の認可を経て「財団法人溶接接合工学会振興会」を設立するとともに、故佐々木新太郎、故木原博両氏の遺徳を継ぎ、溶接接合工学の技術振興と研究者・技術者の表彰と支援事業を行ってまいりました。
更に平成16年からは当振興会の初代理事長金澤武工学博士のご遺志を基に中堅技術者の表彰と支援を新たな事業として行っております。
「財団法人溶接接合工学会振興会」は公益法人制度改革に伴い平成25年4月1日付で内閣府所管の公益法人に移行しました。
加えて令和2年3月4日より全国の工業高等学校等を対象とした「溶接機」寄付事業を内閣府の認定を得て新たに実施し現在に至ります。

【事業活動】

当振興会は溶接界唯一の公益財団法人として以下の公益目的事業を実施しております。

(1) 溶接接合工学研究者・技術者に対する顕彰事業

- ① 木原賞：申請年度の4月1日現在、満36才以下の新進気鋭、若手技術者・研究者を対象にその研究業績に対し表彰
- ② 金澤賞：申請年度の4月1日現在、満53才未満の中堅技術者・研究者を対象にその研究業績に対し表彰
- ③ 佐々木賞：昭和31年に創設されて以来、(一社)溶接学会との共同事業として研究業績に対し副賞を贈呈

(2) 溶接接合工学研究者・技術者の交流事業

溶接技術は鉄鋼・機械・造船・建築・自動車・宇宙・IT等『ものづくり』分野の基幹技術として重要な役割を担っております。その技術内容は他分野の技術進歩とともに日進月歩、最新の技術動向を把握することは溶接研究者・技術者にとっても重要な課題です。各分野の最先端の研究者等と溶接研究者・技術者との緊密な連携を保ちその成果を講演会・セミナーを通じ会員各社を初め多くの企業関係者・研究者・技術者等と最新技術動向を共に共有する講演会・セミナー事業を行っております。

(3) 溶接技術人材の育成事業

少子高齢化に伴い『ものづくり』人材の不足が深刻化しており、溶接界においても将来を担う若年者や女性等を対象にした溶接教育が重要となっております。当振興会では溶接教育を実施している全国の工業高等学校等を対象に教育用溶接機材を提供し即戦力ある人材の育成と就労機会支援のため溶接機の寄贈事業を行っております。

当財団の事業は、寄付金及び賛助会費等で運営されており、事業の継続と更なる充実を図るため、事業の趣旨にご賛同頂き、是非ご寄付をお寄せ下さるようお願い申し上げます。